

医学系研究に関する情報の公開について

(2020-08)

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	胆汁漏に対する経乳頭的ドレナージ術に関する検討
所属科*	大阪労災病院 消化器内科
研究責任者*	平松 直樹
研究実施期間	開始 西暦 2020年 4月 1日 ~ 終了 西暦 2023年 12月 31日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	胆汁瘻
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2000年 1月 1日 ~ 至 西暦 2019年 12月 31日
研究概要*	<p>肝切除後や交通外傷後の胆汁漏は感染や肝不全の原因となる重篤な合併症の一つである。術後胆汁漏の治療としては、従来は経皮的ドレナージが多用されてきたが、ドレナージチューブ抜去後の胆汁漏再発も多く、既報では40%程度と報告されている。</p> <p>近年では内視鏡技術の向上や処置具の進歩に伴い、胆汁漏に対して内視鏡下経乳頭的ドレナージが選択されることも多い。しかし、経乳頭的ドレナージに用いられるドレナの種類や留置位置ごとの成功率の比較や、内視鏡的乳頭括約筋切開術 (以下、EST) の必要性、処置に伴う偶発症の頻度などに関する報告は少ない。胆汁漏に対する経乳頭的ドレナージの適応および方法に関しては施設により様々である。</p> <p>本研究では、胆汁漏発症患者の臨床情報 (患者情報、胆汁漏発症の原因および発症状況) やドレナージ方法 (ドレナの種類と留置方法)、EST 施行の有無、ドレナージ後の経過などに関して大阪大学消化器内科および共同研究機関より症例集積を行い、臨床的成功率や再発率、処置に伴う偶発症の頻度、ドレナージ有効症例の特徴を明らかにすることを目的とする。</p>
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	<p>連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署 (施設・研究室) で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。</p>

別紙第2号様式

研究の問い合わせ先 *	大阪労災病院 消化器内科 平尾 元宏 〒591-8025 大阪府堺市北区長曾根町1 1 7 9-3 電話番号 072-252-3561

* 記入必須項目